

JDRC13 参加報告

D3 長井広樹

9 月 10 日～12 日に京都大学にて開催された 13th Japanese Drosophila Research Conference (JDRC13) へ参加し、口頭発表をさせていただきました。学会全体を通して質の高い発表ばかりで、日本のショウジョウバエ研究のレベルの高さを実感しました。私が研究材料にしている腸管に関する発表も多く、様々な着眼点で精力的に研究が進められていることに非常に刺激を受けました。また、懇親会等では多くのショウジョウバエ研究者の方々とお話しすることができ、総じて充実した 3 日間を過ごすことができました。

JDRC では口頭発表が全て英語で行われます。私にとって学会で英語口頭発表をする初の機会でした。12 分間のプレゼンについては、時間を見つけては練習していた甲斐もあり(毎晩シャワーを浴びながらブツブツとセリフを唱えたのは今となっては良い思い出です)、何とかこなすことができました。しかし、その後の 3 分間の質疑応答では、これまで英会話の努力を怠ってきたツケが回り、自分の言いたいことをほとんど伝えられなかったように思います。今後、世界の研究者の方々に自分の発見したことをしっかりと伝えられるように、積極的に英語の訓練をしなければならないと強く感じました。

大変有り難いことに、私の発表に対して The 9th Daigoro Moriwaki Award “Third Prize”を頂きました。先述の通りの迫力ある発表で、受賞には未だに畏縮していますが、この賞に恥じぬ研究者になれるよう、これからも日々精進してまいります。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



JDRC13 参加報告

M1 根本和也

私は、9 月 10 日～12 日にかけて JDRC13 に参加し、ポスター発表を行いました。学会は京都大学で行われたのですが、会場のすぐ近くには京都大学 iPS 細胞研究所の大きな建物があり、再生医療に対する期待の大きさを感じました。

学会での発表は初めての経験であったので、ポスター発表の直前は大変緊張しました。ただ、色々な方々が私の発表を見に来てくださり、計 90 分間の発表時間中は緊

張する余裕すらありませんでした。また、ディスカッションでは、私がこれまで考慮していなかった可能性を指摘され、私の研究を見つめ直す良い機会となりました。

JDRC13 では決定転換に関する発表こそなかったものの、私が研究している Dilp8 などのインスリン様ペプチドに関する発表が多くあり、今後の研究に役立ちそうな情報を得ることができたと同時に、多くの人々が注目している分野であることを改めて実感しました。さらに、D3 の長井さんが The 9th Daigoro Moriwaki Award “Third Prize” を、以前に当研究室に在籍されていた堀さんが Life Science Alliance journal Poster Prize を受賞されたことも大きな刺激となりました。私も次の学会で賞を頂けるように研究を頑張りたいと思います。

最後にこのような貴重な機会を頂けたことに感謝いたします。ありがとうございました。

